

野

生

動

物

に

注

意

しまし  
ましょ  
うー！



## ツキノワグマ編



ツキノワグマ(母親と子)



## ニホンジカ編



ニホンジカ(成獣、夏毛)



## イノシシ編



イノシシ(成獣、およそ1歳~2歳)



# クマ に注意してください！

～クマの生息地で事故に遭わないために～

## クマと出会わないために…春と秋は事故が多くなる傾向

◆目撃・出没情報や、クマの新しい痕跡(糞、食痕、爪痕)があった所には近づかない  
市の防災無線、防災メール、ツイッターなどで情報発信しています。

◆クマが出没する場所では自分の存在を常に知らせる

クマ鈴やラジオなどで音を出したり、声を出したりして  
存在を知らせましょう。

携帯ラジオ

クマ鈴



## クマに出会ってしまったら…まずは落ち着きましょう！

◆基本の対処法

走ったり大声を出したりせず、落ち着いてゆっくりと静かにクマから目を離さず後退する。クマとの間に障害物がくるようにする。

◆いかくとっしん威嚇突進の場合

クマが突進途中で止まり後退する動作。基本の対処法を実施する。

◆本当の攻撃の場合

クマ撃退スプレーをクマの目や鼻をめがけて噴射する。クマ撃退スプレーがない場合は防御姿勢をとる。

◆子グマに注意！

近くに必ず母グマがいます。母グマは子グマを守るために特に攻撃的になりやすいです。



## 周辺環境をチェック！…人間の生活域で被害に遭わないために

地域の状態をチェックしてみましょう。

栗

柿

桑の実

ハチミツ

### クマを寄せる物を除去する。

鋭い嗅覚を持っているため、風で運ばれる匂いで人里に誘引されます。

一度エサがあると覚えると、毎年訪れるようになります。特にハチミツ(養蜂箱)や、放棄果樹(カキ・クリなど)、生ゴミ(穀物や甘い匂いのする物)に注意しましょう。



### 農耕地などのエサになる物へ防護柵を設置し、管理を行う。

### クマの集落周辺への侵入や一時的な定着を防止するための耕作放棄地などの整備や藪の刈り払いを行う。

## ツキノワグマ(以下、クマという)の生態と行動

◆体長は110～130cm、体重約60～150kgの大型動物です。

◆非常に優れた聴覚・嗅覚を持っており、高い音には敏感であり、笛や鈴などによってクマとの遭遇を回避できると言われています。

◆行動は広範囲に及び、オスで10～250km<sup>2</sup>、メスで4～100km<sup>2</sup>程度と言われています。

◆食性は、植物性に偏った雑食性であり、新芽や草本類、昆虫・動物質を採食します。冬眠を控えた秋にはドングリを大量に採食する必要があるため、ドングリの豊凶年にはクマが人里への出没が増加する傾向にあります。

◆冬期は樹洞、土穴などで越冬し、雪解け頃から活動を始めます。

◆出産は2～3年おきに1回、平均産子数は1.7頭であり、ニホンジカやイノシシと比べて繁殖率が低いのが特徴で、個体数が減少すると回復に時間がかかる動物です。

◆寿命は、野生下で15～20歳程度と考えられます。

◆群馬県内の生息頭数は、約1,200頭と推定されています。

## クマと共存するために

国土の約70%を森林が占める日本において、クマは自然の豊かさを表す代表的な動物であり、自然生態系の頂点に位置するクマが生息できる環境を将来にわたり守っていくことは、自然環境を保全する上で重要です。

一方、クマによる農林業・人身被害などの発生によりクマと人との<sup>あつれき</sup>軋轢が生じています。共存のためには棲み分けを図り、問題を発生させるクマをつくらないことが重要です。



# シカと車の



## 衝突事故に注意してください！

### シカと車の衝突事故は、ほとんど夜に起こる

シカは本来、薄明薄暮性(日の出前と日没直後に活動的になる)の動物ですが、ハンターなどの人間がいない夜間をメインに活動するシカが多いからです。

### ヘッドライトの光を見ると硬直するシカが多い

道路上でシカが固まってしまっていたら、人間側が減速するしかありません。その場の道路状況などを判断しつつ、徐行で通り過ぎるなどの対処をしてください。



### シカとの事故に遭わないための運転

#### ◆飛び出し注意の道路標識がある場所では、スピードを出さずに減速する

シカ飛び出し注意の道路標識が設置されている場所は、過去にシカと車の接触事故が発生した場所である確率が高いです。

シカが横断する確率が高いので、減速して通過しましょう。

#### ◆夜間、光るものが視界に入ったら徐行する

シカの目はヘッドライトの光を反射してよく光ります。

運転中に何か光るものが目に入ったら「シカかもしれない」と思って、すぐに減速しましょう。

#### ◆クラクションを鳴らすのは逆効果

クラクションの音に驚いたシカが道路上に立ち尽くしてしまい、車と衝突してしまうこともあるので、出来ればクラクションは鳴らさない方が良いでしょう。

#### ◆群れで行動する生き物。1頭飛び出して来たら4~5頭は出てくる可能性あり

シカを避けて安心していたら、草むらの中から別のシカが出てきた！ということはよくあります。1頭いたらその近くに群れがあることを想定して運転しましょう。

## シカをひいてしまった場合

ひかれたシカをそのまま道路上に放置しておくことは危険であるため、すぐに警察や道路管理者に連絡し、処置をお願いしましょう。

## ニホンジカ(以下、シカという)の生態と行動

- ◆**生息域**は森林や草原です。食料である草木が近くにあるためです。
- ◆**食性**は、主に広葉樹の葉っぱや、イネ科の草、ササ類の葉っぱ、ドングリなどの木の実で、季節に応じて多岐にわたり、ほとんどの植物を食べます。
- ◆**行動範囲**はとても狭く、0.5~2.5km<sup>2</sup>の範囲で休息と食事を繰り返しています。2~3時間食べては、2~4時間休憩しながら反芻<sup>はんすう</sup>を繰り返しています。
- ◆食べたものを繰り返し消化する反芻<sup>はんすう</sup>動物です。
- ◆**寿命**はオスが4~6年、メスが6~8年程度です。
- ◆**メスは1産1子で、栄養条件が良ければ1歳から繁殖を開始**します。4歳以降は毎年繁殖を繰り返すことから、シカにとって良い環境下では個体数増加が著しく増加します。
- ◆**オスとメスは別々に群れ**を作ります。  
メスは、母親を筆頭にその母ジカから生まれたメスの子供達の群れを形成します。  
オスは、生後1~2年で生まれた群れから離れ、オスだけの群れを形成します。  
また、群れは固定的なものではなく流動的で、森林の中では小規模な群れを形成し、開けた草原などでは合流して大規模な群れを作ります。  
繁殖期にオスの群れは分解し、強いオスはメスの群れを囲い一夫多妻制の群れ「ハレム」を作ります。
- ◆**日の出前と日没直後の薄明るい時間帯**に活動する薄明薄暮性の動物です。  
しかし、深夜にもシカを目撃することがよく有りますし、シカと車の交通事故なども夜間起こっており、シカは夜行性的のように思われますが、これは、シカが人間の活動に合わせて行動時間を変えた結果なのです。  
昼間には畑に人がいますし、山の中ならハンターがシカを撃ちに来ることもあります。  
このため、シカが生活パターンを変えて夜に行動するようになり、人気のない夜の畑におりてきたりするようになったのです
- ◆**群馬県内における生息頭数**は、約4万頭(平成30年度)と推定されています。



# イノシシに

## 注意してください！

### イノシシに出会ったら

イノシシは本来、臆病でおとなしい性質を持っているため、イノシシに出会っても、あわてる必要はありません。

しかし、興奮していたり、至近距離で突然出会った場合には注意が必要です。事故を防ぐために次のように対処しましょう。

#### ◆攻撃したり、大声で威嚇したりしてはいけません

棒を振り上げたり、石を投げたりして挑発するのは大変危険です。

逆上したイノシシが向かってくることもあります。

#### ◆落ち着いてゆっくり、その場を離れましょう

イノシシに出会ったら、静かにその場を離れるようにしましょう。後ろを向くと襲ってくることもあるので、なるべく背中をみせないよう、ゆっくりと後退するようにしましょう。

急に走り出してはいけません。イノシシを興奮させてしまいます。

#### ◆どうしても接近を避けられない場合

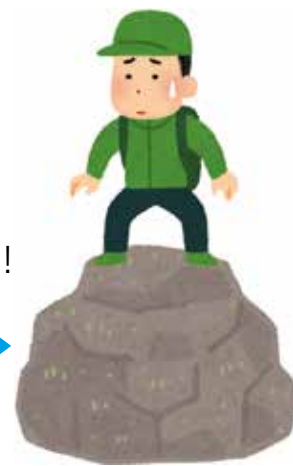
イノシシと出会ったら、その場を離れるのが一番ですが、イノシシの逃げ道に人間がいる場合などには接近してくることがあります。

そのような場合には、安全な場所に避難することでイノシシに道を明け渡しましょう。

避難先は突進を避けられる障害物の後ろや、イノシシが登れない場所です。



慌てず  
ゆっくり！



### ◆食べ物を与えないでください

食べ物を与えないでください。人への警戒心が低下し、人間が食べ物の供給源だと学習したイノシシを育てることにつながります。

人間にとってはゴミであっても、イノシシのエサになるものがたくさんあります。

### ◆ウリボウを見かけても、近づいてはいけません

ウリボウ(イノシシの子)がいる場合、近くに母イノシシがいる可能性が高いので、近づいたり追いかけたりしてはいけません。

### ◆犬の散歩の際に

犬と散歩する際は、犬がイノシシを追いかける可能性がありますので、リード(手綱)を放さないよう、しっかりと持ちましょう。

## イノシシの生態と行動

◆成獣の体重は60～100kg程度だが、個体差が大きく100kgを超える個体もいます。オスの方がメスよりも大きいのが一般的です。

◆体毛色は黒褐色から赤褐色であり、生後半年～1年位までの幼獣には白または薄茶の縞模様が入り、ウリボウと呼ばれます。

◆性格は基本的に臆病で警戒心が強いが、その場所が安全であることを覚えると行動が大胆になります。

◆昼行性だが、人の生活圏では夜間に行動します。

◆畑の作物を食べ栄養状態が良いと、満2歳で初産を迎え、年1回繁殖し、平均4～5頭出産と多産で、その内の約半分が成獣になります。

◆寿命は約6～10歳で、5歳以上になる個体は多くありません。

◆生息地は藪や茂みなど、身を隠せる場所です。

◆特定の縄張りを持たず、複数の群れが同一地域を利用することもあります。

◆移動距離はメスよりオスの方が長く、イノシシが生息域を拡大する初期には成獣オスがよく出没します。

◆成獣メスや幼獣の出没はイノシシの生息域の拡大の指標です。

◆日中の目撃増加はイノシシの警戒心低下の指標です。

◆行動域は0.3～0.5km程度ですが、成長したオスの仔が母親から離れる際や、人間の圧力がない状況下では行動域が1～2.5kmと広域に及ぶこともあります。また、季節によっても行動域が変化します。

◆群馬県内における生息頭数は、約2.4万頭(平成30年度)と推定されています。

## ◆ 参考

- ・エゾシカとの衝突事故について……………北海道
- ・クマにご注意ください！……………農林水産省
- ・クマ類の出没対応マニュアル……………環境省
- ・群馬県イノシシ適正管理計画……………群馬県
- ・群馬県ツキノワグマ適正管理計画……………群馬県
- ・群馬県ニホンジカ適正管理計画……………群馬県
- ・DEER INFO……………日本で唯一の鹿情報総合サイト
- ・豊かな森の生活者 クマと共存するために……………環境省



## ◆ 野生動物に注意しましょう！

令和3年9月発行

作成 安中市役所 産業環境部 農林課 鳥獣対策係

郵便番号 379-0192

住所 群馬県安中市安中1丁目23-13

電話番号 027-382-1111